

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	校内體育大會記：報告
Author(s)	總務部代表幹事
Citation	龍南, 252: 60-61
Issue date	1942-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8530
Right	

校内體育大會記

總務部代表幹事

第五十五回創立紀念式及鍛鍊體育大會。

本校第五十五回創立紀念式は、十月十日（土曜）本校講堂に於いて舉行せられた。八時開式、國民儀禮、勅語奉讀、添野學校長祝辭、職員代表山田教授（本校三十八回卒業）祝辭、生徒代表（平松總務）祝辭、紀念祭歌齊唱あり、次いで八時半より、本日式典のため態々來熊された本校先輩、法學博士、大川周明氏（十六回卒業）の「大東亞建設の歴史的基礎」と題する紀念講演があつた。氏は一時間にわたり、大東亞の現狀に至るまでの歴史的情勢を詳述され、更に指導者としての能力養成のため全力を傾注すべきことを強調された。

かくして十時紀念式典を終了し、ついで全員武夫原に集合、合同体操の後、秋晴のもとに、鍛鍊體育大會を開催した。午前中には百足リレー、對寮棒倒し、等あり、晝食時には、全校職員生徒に祝品として、パンを配つた。午後は、滑空部、銃劍道部、機械体操班の展技、招魂社參拜競争、黒髮幼稚園兒童の遊戲、耐久競争、各部對抗リレー等あり大いに龍南人の氣勢をあげ、四時過ぎ解散した。

◎文化日。

現在、龍南に於ける各人の文化意識、即學問への情熱といふものは決して深いとはいへない。龍南人たるの自覺を促し學問へのひたぶるな情熱をよびをこすために、今回鍛鍊部と文化部との熱意によつて、こゝに文化日を設定した。即毎週土曜日、一時より三時まで名士招待、文化講義、各文化部の研究會等を開き、やむをえざる場合を除きその間の鍛鍊部の運動は中止し、夫々の行事に各人が參加研究するのである。勿論これは、各人の自發的參加を待つもので、強制するものではないが、全校一團となつて、鍛鍊に、文化に、活動することによつて始めて龍南は眞の龍南たりうるのである。各龍南人の積極的參加を要望してやまぬものである。

◎いたづらに時局の混沌を歎くことをやめよ。現實に對する單なる感傷的詠嘆を排せよ。冷靜に自己を見つめ、世界を凝

視して、眞面目に、眞剣に生き抜かうではないか。「天下の衆に先んじて憂ひ、天下の衆に後れて樂しむ。」新時代の先覺者として、東亞民族の先導者として、自ら苦しまうではないか。一時の感激や興奮をすてゝ大いなる誇をもつて逞しく突きすすまうではないか。全龍南人よ。共に起たうではないか。我祖國は戰つてゐるのだ。